

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800289		
法人名	医療法人社団壮志会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう		
所在地	長崎県松浦市御厨町里免397番地10		
自己評価作成日	令和 1年 10月 31日	評価結果市町村受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和2年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、住み慣れた地域で共同生活を送り、楽しく明るい生活が送れるように取り組んでいる。又、母体が医院の為、安心した医療サービスが提供できる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関を母体とする当ホームは系列の介護老人保健施設や訪問看護事業所が近隣にあり、医療面での充実が入居者本人・家族にとっての安心感へと繋がっている。また、併設している系列事業所の跡地には新たに障がい児通所事業所が開所予定であり、今後、他分野での交流等で期待が持てる。ホームは近隣在住の勤続年数が長い職員が多いことに加え、緊急連絡網への近隣商店の登録の協力も得ていることから緊急時に迅速な対応が可能である。ホームは道路に面して立地していることもあり、外出時には安全上の不便を強いることもあるが、年間の行事計画を立案し計画的に外出できるよう家族からの協力を得ながら外出の機会を設けるなど、立地面の不便な状況を補いながら支援している。職員間のチームワークも良好で職員にとって働きやすい環境が整っていることが入居者への支援にも反映されており、尚且つ入居者・職員・管理者の関係性にも活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ゆうゆう1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をフロアーの見えるところに掲示、共有し、実践に努めている	ホームでは1年毎に理念に基づく目標を各ユニット職員で話し合っており、目標に対する反省及び翌年への取り組みについては年度末の職員会議にて話し合っている。職員は不適切と思われる言葉遣いなどについて、気付いた時に気付いた人が伝えるなど実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流はできてないが行事・地域の小中学校の運動会等に見物に行っている。時々元気カフェに参加している	ホームは地域行事などの情報について運営推進会議メンバーである地域代表者より得ており、音楽祭や公民館での作品展などへ入居者とともに出掛けることで地域と交流することができている。また、地元中学校の体験学習についても定期的に受け入れを行っている。	地域代表者より得た情報をもとに地域行事へ積極的に参加しているため、より一層地域に根差したホーム実現に向け、ホームから行政等への働き掛けや地域の各種ボランティア活動等へ参加するなど、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尋ねられたり相談されたらお話ししたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域の方・他ホームの方の話を聞きサービスの向上に活かされている	運営推進会議には行政・地域代表者・他事業所管理者・母体病院事務長・入居者及び家族代表等の参加があり、活発な意見交換を行っている。会議メンバーからの意見や助言を運営に反映するとともに、ホームでの七夕祭りの際には笹の提供があるなど協力関係を築くことができている。	運営推進会議議事録から参加者との活発な意見交換を行っていることが確認できる。会議での意見や検討事項等について参加者以外が見ても分かりやすいよう例えば口述形式で記載するなど、更なる運営の透明化に向けた今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議に出席して頂き、ホームの事をよく知ってもらっている。わからない事があると電話でお聞きしている	各種報告書の提出や運営の相談などで窓口を訪れるほか、運営推進会議を通じて行政担当者との関わりを持っている。また、地域包括支援センターとも入居に関する問い合わせや、今後入居を検討している方の入院先へセンター職員とともに同行訪問するなど協力体制もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を行い全職員で拘束をしてないか確認し、ケアに取り組んでいる	ホームでは定期的に身体拘束適正化委員会を開催しており、議事録を職員間で読み上げるとともに閲覧し共有している。また、身体拘束に関するホーム指針ややむを得ず拘束せざるを得ない場合に備えて家族の同意書についても作成している。適正化委員会のメンバーについて現在職員のみでの構成となっているため、外部の方の参加が望まれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体の拘束は行われていないが言葉の使い方不安がある為充分注意し、注意し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば参加し正しく理解し、必要時には活用できるよう支援したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い理解・納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見・要望をお聞きしている。面会が難しいご家族には請求時の手紙等でお聞きしている	ホーム玄関への意見箱の設置や、苦情相談に関する第三者窓口についての説明を入居契約時に行っている。ホームでは家族面会時の情報について業務日誌や個人記録へ記載し職員への周知を図るとともに、情報の見落としがないよう付箋を所定の場所へ貼る工夫を行っている。遠方の家族の要望については担当職員より手紙や電話にて伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見が出ることも有る。管理者が母体へ持って行っている	職員からの意見や要望について毎月の職員会議で話し合うほか、管理者が職員一人ひとりの日頃の様子を観察しながら気付いた点についてその都度対応している。職員会議で挙げた要望などは必要に応じて母体法人の担当部署と相談しながら実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況・職場環境は良くなったが、やりがい・向上心を持てるような給与水準を考えて欲しい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネジャーの研修が多い。他の職員ももっと行けると良い		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で知り合った方と連絡を取り合う。運営推進会議で交流しサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族の方からお話をお聞きし、安心できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも話し合い、安心してホームで生活出来るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の望む生活に結びつくようなサービス支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を、出来る方にして頂き暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとっては家族は大切な心の支えである。連絡を密に行い常に身近な存在でいてもらえるよう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方と行きつけの美容室に行かれたり、月に一度神父様が来られお祈りされたりしている	入居者馴染みの床屋や美容室へ家族もしくは職員が同行し外出することができており、入居者の趣味である習字や編物、ぬり絵などの活動支援、並びに盆正月・冠婚葬祭等の行事についても家族の協力を得ながら支援している。また、必要があれば車椅子等の貸出も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高齢の方などは自室で横になられている事が多いが、レクリエーション等に誘うと参加されている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所で会ったりした時は声掛けし様子をお聞きしたりしている。他施設へ面会に行ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、希望をお聞きしできるだけ本人の希望に沿えるよう努めている	職員は入居者との日常の会話の中や各種支援場面での反応・表情を観察し思いを汲み取っている。把握した入居者本人の思いや希望は業務日誌や個人記録に残し職員間で共有するとともに、希望に沿った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーや、家族等にお聞きし理解に努めている。本人とのおしゃべりの中で知ることもある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが好きなように過ごして頂いている。毎日の行動等で現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者・職員の違った視点で本人を見て、会議では熱心な話し合いが行われている	ホームではケアプランの見直しを3か月毎に行っており、各入居者の担当職員を中心に職員会議で内容を検討し、計画作成担当者が作成している。遠方の家族の思いについてはケアマネジャーより本人の現状報告とともに伺っている。プラン内容は日々のチェックリストに時系列で表示しており、気付きを記入する欄も設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り帳に記入し、カルテへ記録。職員間で申し送りし情報を共有。実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズには柔軟に対応しているが別のサービスが必要な時は他施設を紹介している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し、本人が楽しめたり、安全で豊かな暮らしができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医院の為、定期的受診は職員が同行している。他医療機関(眼科)等は家族にして頂いている	ホームには運営母体である医療機関による訪問診療や、週1回訪問看護の訪問があり、歯科については随時往診にて対応している。母体医療機関への受診の際には職員が同行支援を行っており、遠方もしくは以前からのかかりつけ医については家族対応としている。家族対応での受診の際には職員より伝達事項のメモを渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師と情報をやり取り相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	毎日病院に行き、洗濯物を持ち帰る。状態もわかり日誌に記録している。本人も安心して頂けるよう関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当Drの診断により決定。家族と話し合いホームで出来ることは行っている	現在看護師が在籍していないこともあり、医療行為が必要となった時点で母体医療機関の医師に判断を仰ぎ、医師から家族へ伝達し今後の方針について職員も含めた話し合いを行っている。また、入居者の夜間急変に対する職員不安について解消できるよう緊急連絡体制を整えており、看取り指針や家族への同意書についても作成し契約時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応・応急手当のマニュアルが有、急変時や事故時の実践力も身についてきている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に、火災・災害時の訓練を行っている	ホームでは年間計画をもとに消防署立ち会いも含めた入居者参加型の避難訓練を定期的に実施しており、河川氾濫を想定した自然災害の訓練の際には警察署員の参加も得、有事の際に備えている。緊急連絡網への地域商店の登録など地域との協力関係についても構築している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳元でお話したり、プライバシーを損なわないよう心掛け対応している	外部評価調査時、各種支援場面において職員が入居者本人の思いを尊重しながら声掛け・誘導を行っていることが確認できた。ホームでは紙類やメモなど不要となった際に適切に破棄しており、個人情報の守秘義務についても入職時に誓約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け等で思いや希望を聞き、自己決定が出来るよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースにあった生活を大切にし、希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の服を選んだりされる。出来ない方は援助し、その人らしい身だしなみを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物・食べたい物を聞いたりし準備している。下膳できる方はお願いしている	ホームでは勤務時間帯で朝・昼・夕食の担当を決めて調理しており、前日の食事内容と重ならないよう季節の食材や色合いを考慮した入居者一人ひとりの体調に合わせた食事を提供している。野菜の皮むきや味見など入居者にもできる範囲で手伝ってもらい、残存機能の保持に努めている。また、家族同行でチャンポンを楽しみに外食の機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせて量も調整したり食べやすいように刻んで提供している。水分量は配茶をしているがあまり飲まれない方もおられる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、毎夕食後義歯の方はポリデント消毒している。毎日曜日歯磨きセットの消毒も行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツから布パンツになられた方もおられるが、失敗してプライドを傷つけないよう支援を行っている	職員は毎月の職員会議にてオムツ・尿取りパット類について入居者本人にとって適正であるかどうか話し合いを行っている。入居者本人と家族とで話し合い持参する場合はそれぞれの意向を尊重している。遠方に外出する際には事前に車椅子対応のトイレの有無について確認を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やDrから処方された薬にて調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間はほぼ決まっているが、曜日・時間を決めていた方が安心される事が多い。入浴時は、本人のペースで出来る事をしてもらっている	ホームでは月曜から土曜までの間に週2回入浴できるよう支援している。体調不良や拒否などある場合には清拭・シャワー浴、もしくは翌日入浴にて対応している。職員は入居者一人ひとりの湯温の好みに対応したり、皮膚疾患のある方については入浴の順番を考慮したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので、好きな時間に休まれている。夜もぐっすり眠っておられる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用の理解に努めている。臨時薬等服用の時は、症状の変化に注意し状態報告を医院へしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機かけ、洗濯物畳等され、張り合いある日々を過ごして頂けるよう支援している。歌が好きな方には録画したのを観て一緒に歌ったりされている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブ・行事等で外出したり、家族と病院・美容室に行かれることも有る。外泊される方もおられる	建物の構造上外出をためらう家族がいるが、入居者は家族や職員とともに馴染みの床屋や美容室など日常的に外出する機会が多くある。また、受診の帰りに自動販売機で好みの飲物を購入したり、春にはホーム近隣でツワ取りを楽しんだりするなど、思い思いに楽しむことができています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品としてホームの金庫で預かっているが、小銭を財布に持たれて買い物を頼まれる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話を掛けたりできるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは日当たりが良くカーテンで調節し、テレビ後ろのボードに季節の物を貼ったりしている。歌番組等の音量は少し大きくなりしている	職員と入居者の毎日のモップ・掃除機掛けによってホーム共用空間は清潔に保たれており、トイレや手すり、ポータブルトイレなど肌に直接触れるところは次亜塩素酸水で拭いている。また、加湿器設置やカーテンでの陽当たりの調整などで過ごしやすよう配慮している。壁面には習字などの入居者の作品や行事写真など飾られており、温かみを感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休まれる方、CDを聞かれる方、居室でお話をされる方もおられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・CDラジカセを置いたりされている。ベッドやロッカー・ポータブルトイレの位置など本人が使いやすいよう配置している	入居者の担当職員による気配りが随所に窺える居室には入居者の馴染みの物や家族写真等思い出の品が持ち込まれている。室内には神父の訪問や仏壇の持ち込みも自由である。居室の模様替えを行う際には入居者本人・家族と話し合い決定している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーになっており、廊下は手すり付きで自由に行き来されている。トイレは夜間ポータブルトイレを使用される方が殆どである。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ゆうゆう2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、共有し、実践に努めている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会・行事・元気カフェに参加したりし、地域の一員として交流している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館まつりに出展したり、ホームの様子をホームだよりにして地域に配布し、活動内容を理解してもらえるようにしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所・ご家族・地域の方の参加にてホームでの生活を報告し話し合い、意見等を頂き、向上に活かしている			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と連絡を密に取り実情やサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう努めている			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の話し合いを定期的に行い身体拘束をしないケアに取り組んでいるが入口先には階段がある為施錠している			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない。言葉使いは気をつけなければと注意をはらっている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とされる方は居られない。研修があれば学びたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時十分説明を行い理解・納得されている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話等で話しやすい関係を築いている。会議にも参加して頂き発言しやすいよう支援している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気付いた時はその都度伝えたり、職員会議で話し合っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当がつくようになり、向上心を持って働けるようになってきた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が、行ける場所であれば行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの会議に出席し交流し、情報交換も行い仕事に活かしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い会話の中から困っていること・不安なことを把握し、安心できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の時など、お話をお聞きし不安や要望などお聞きし安心して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリーを参考に直ぐにプランを作成、全職員でプランを検討し、ホームの生活に早く慣れて頂けるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩なので色々知識を頂きながら支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にお話ししたり、受診・外出・外泊をお願いし、共に支えている関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室・理容室に行かれたり、面会が出来るようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないよう声掛けや会話をし、フロアーに誘う。新しい入居者さんに気を使われ話しかけたりされている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所でお会いした時など声掛けし、その後の様子をお聞きしたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意向の把握に努め、思いに沿って生活してもらっているが困難な場合は検討し家族に相談することもある		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にお話をお聞きし情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を見ながら現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付いた時職員で話し合い、モニタリングし本人にとって必要なサービスが出来るよう介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入、情報を共有し、実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて話し合い、モニタリングを行い柔軟な支援やサービスを行うよう取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握、地域の行事に参加し地域の方の協力を得て、安全に気を付け楽しむことが出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医院なので適切な医療が受けられている。他の病院受診は家族の方に協力をお願いしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時に日頃の気づきを相談し適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	毎日様子を伺いに行きその日の状態を全職員で共有し、本人・家族に安心して頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当Drの診断によりその後の方針が決定され、家族との話し合いを行い要望を取り入れ、共有した支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが有、医院に直ぐに連絡し指示をうけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火事・災害時の訓練を定期的に行い全職員が身に付けている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックに気を付け、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞いて、自己決定が出来るよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先しないよう一人ひとりの希望や体調・ペースに合わせ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらったり髪カット(美容室・理容室へ行く方もあり)爪切りなどの身だしなみの支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の中で一番の楽しみ、一緒に準備や片付けをしている。食べたい物を聞いた時はメニューに取り入れている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	とろみを付けたり、ひと口大にしたりと一人ひとりの状態に合わせている。自室時間が多い方は配茶している。入浴後は水分補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア・毎夕食後義歯ポリデント消毒。土曜日歯ブラシセット消毒。一人ひとりに声掛けし口腔ケアの支援をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握して誘導・声掛け等支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを理解し、水分補給を声掛け便秘の方には下剤でコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、その時の体調に合わせて交代することも有る。お湯の熱さも希望に沿って支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に居室で安心して休まれている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが用法・用量について理解し、服薬の間違いないよう職員間で確認し、服薬後は変化に気づけるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機かけ・モップかけなど手伝われ自分の役割と思っておられ、張り合いになっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物や散歩に出かけたり家族の協力を得て外出支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設金庫で預かっているが、自分で持たれている方もおられ、買い物に職員と一緒に出かけたり・頼まれる方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されたら職員が電話をかけてお話しされる。携帯を持ちかけられている方もおられる。年賀状を出されたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるような花を生けるなど心地良い空間になるよう心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由にくつろいだり、ソファでは居眠りされたり、気の合う方同士でゲームされたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを置いたり、家族の写真を張るなど居心地良く生活できるように工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド・ポータブルトイレ・家具の位置を使い易く安全な生活が送れるよう工夫している		